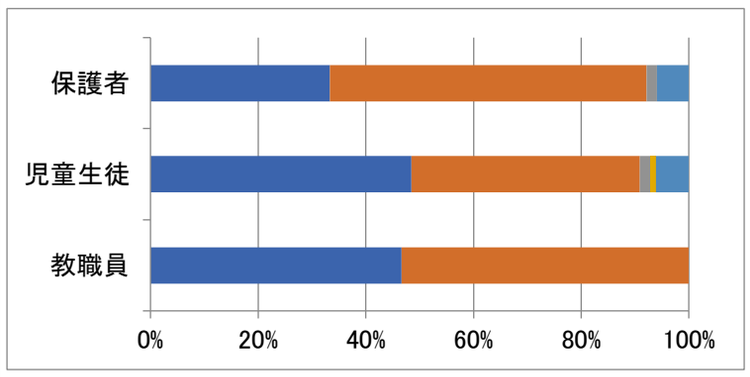
令和６年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

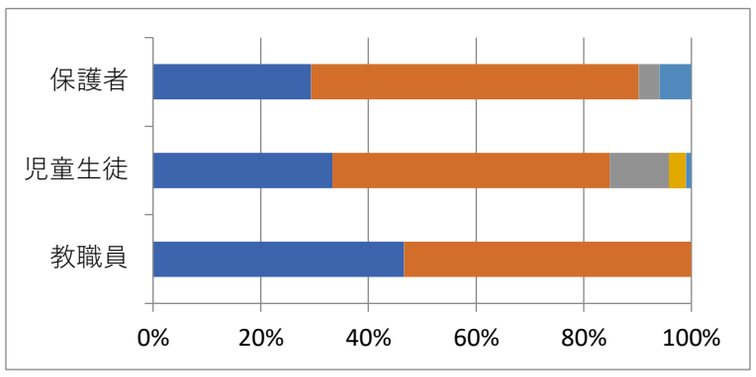
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



考察

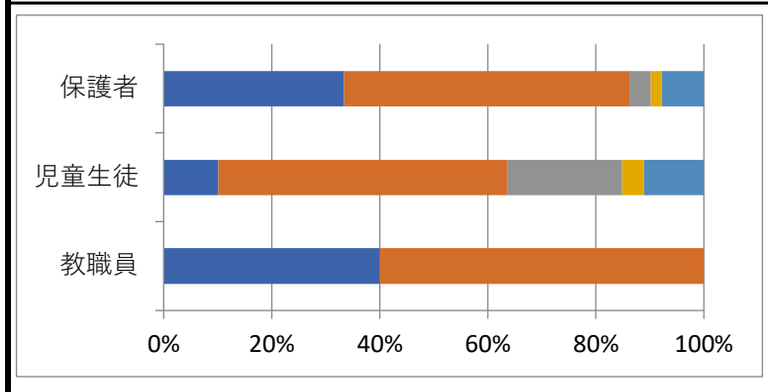
１については、昨年度の「豊かな人間性を育む教育の充実」と比較して、教職員の「そう思う」が２０％以上向上した。また、児童の「そう思う」が教職員の回答よりも多い。今後は、学校が取り組んでいる道徳教育や人権教育について、より一層保護者にも周知していく必要があると考える。

２については、「そう思う」の回答が、教職員は半数程度あるものの、児童と保護者は３０％程度にとどまっている。観察やアンケート調査等を通して児童の実態を掴み、児童が受け身ではなく、「自分の課題」として学習に取り組めるような授業における手立ての工夫を講じていきたい。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）

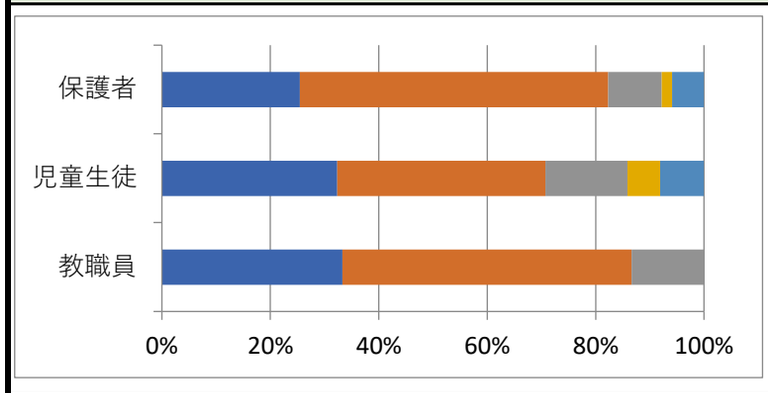


教職員や保護者と比較して、児童の「そう思う」の回答が少ない。また、児童の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の回答は２５％となっており、「わからない」も含めると３５％となる。児童の３人に１人は、学校行事や児童会活動等が、自分たちの学校や地域の活性化と繋がっていると実感できていないと言える。さまざまな活動において、場や役割等を工夫し、児童一人一人が集団の中で自己有用感を持てるようにすることで、集団の中で自ら考え行動する力を育んでいく必要がある。

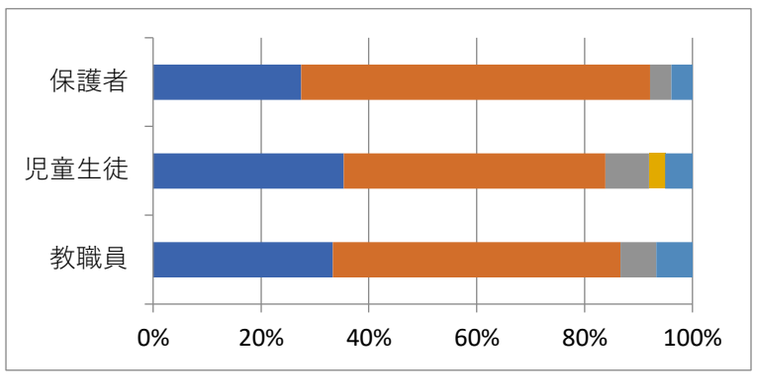
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。

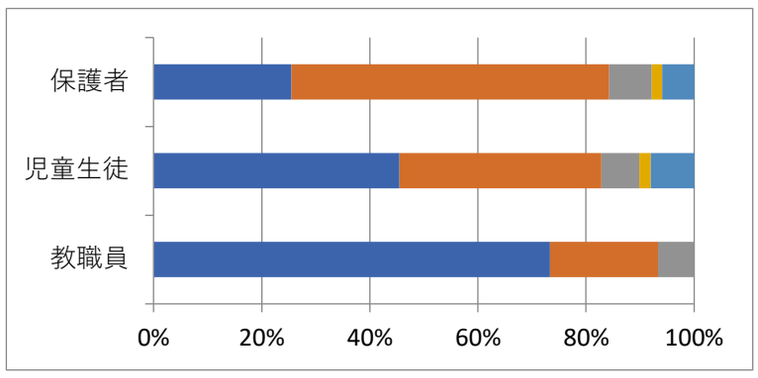


個別最適な学びも、協働的な学びも「できている」と捉えているのは、児童、保護者、教職員ともに３０％程度にとどまっている。教職員の中にも「どちらかといえばそう思わない」や「わからない」という回答があり、個別最適な学びと協働的な学びについて、まずは教職員一人一人の認識を深めなければならない。双方のよさや重要性の理解のもとに教師が授業づくりを工夫し、児童や保護者も「学校は個別最適な学びや協働的な学びを実践している」と実感できるようにしていきたい。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

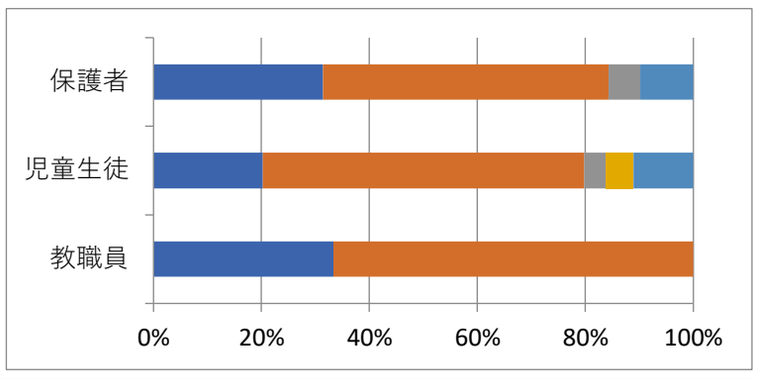
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



６については、教職員に比べ児童と保護者の「そう思う」の回答が少ない。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「分からない」の回答が２０％程度あり、教職員との意識の差が大きいことが分かる。

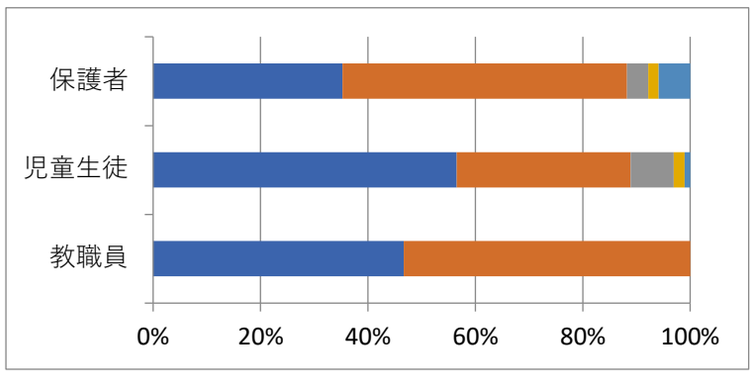
７については、教職員と保護者に比べ、児童の「そう思う」の回答が少なかった。

児童のよさを見つけ価値づけていくことや、失敗しても大丈夫だという集団の雰囲気づくりに努め、まずは児童一人一人が「自分は大切にされている」と実感できるようにすることが肝要である。そのうえで「周りの人も大切にしていこう」という思いを育んでいきたい。

（３）最適な教育環境の整備

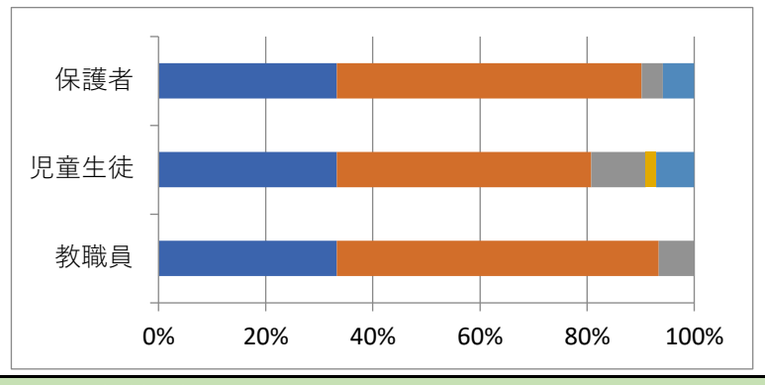
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

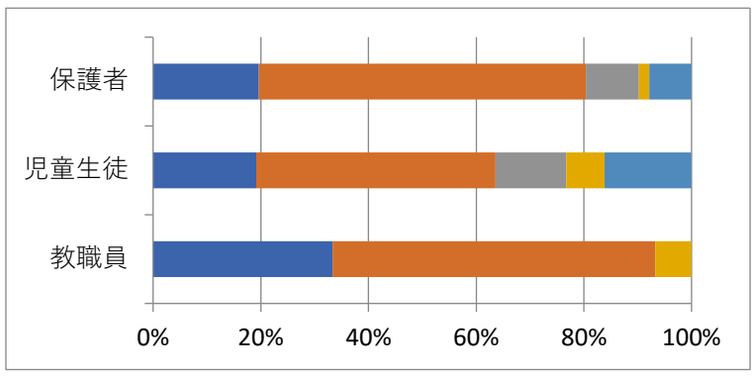


安全教育については約６割の児童が「そう思う」と回答しており、「どちらかといえばそう思う」も含めて、全体的に安全への意識は高い。
家庭や地域との連携については、保護者の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答が９割に迫り、「そう思わない」の回答は０であった。
運動会や学習発表会、授業参観等の行事について通信等で周知したり、職員が保護者とこまめに個別の電話連絡を取ったりしているので、今後も継続していくことが重要であると考える。

（４）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

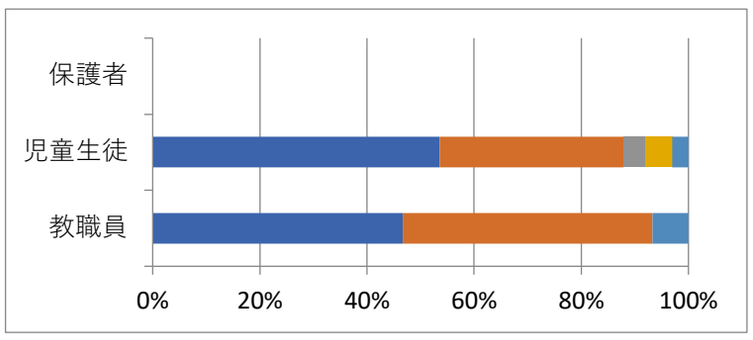


保護者と児童の「そう思う」の回答は２０％にとどまり、児童の３割以上が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」と回答している。教職員の中にも「そう思わない」の回答がある。こどもの権利について児童・保護者・教職員の３者で共通の認識を持ち、対話をもとに児童が主体的に生活できる学校づくりを行うことで、児童一人一人が「自分の意見が取り入れられている」「自分は大事にされている」と実感できるようすることが大切であると考える。

独自項目

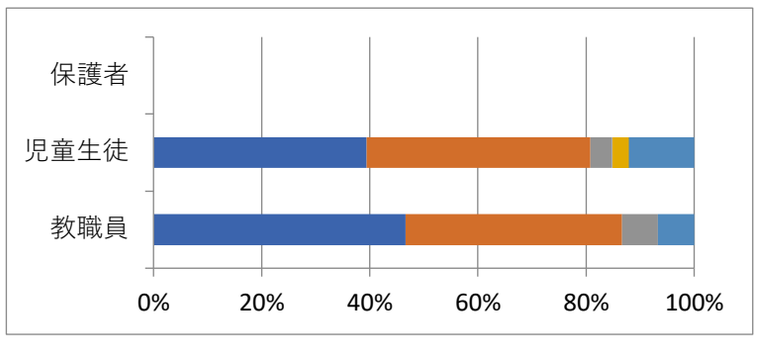
わかる・楽しい授業づくり

学校は、わかりやすく、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



人にやさしい学び

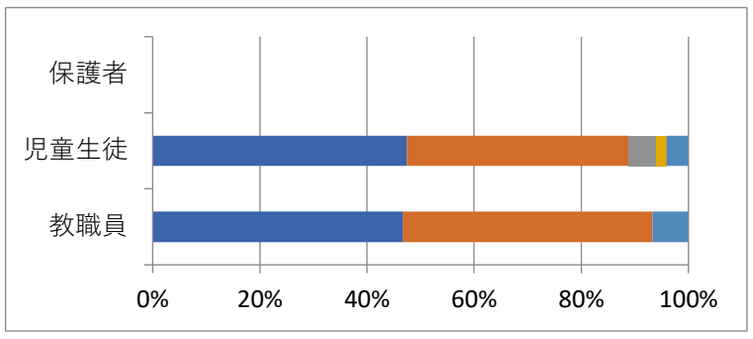
子どもたちは、友達の発表や考え、先生の話をしっかりと聞けるようになってきましたか。（＝【人にやさしい学び】ができるようになってきましたか。）



楽しい授業づくりについては、児童の約６割が「そう思う」と回答しており、「どちらかといえば、そう思う」も含めると９割近くに上る。「人にやさしい学び」は約８割、「自分にやさしい学び」は約９割が肯定的な回答をしている。授業の内容が分かり楽しいと感じることが、「友達や先生の話を聞こう」とか「将来の自分のためにもっと力をつけよう」とする意欲の高まりに繋がっていると感じている。

自分にやさしい学び

子どもたちは、将来の自分のために力をつけようと、授業や学力充実タイムでがんばることができるようになってきましたか。（＝【自分にやさしい学び】ができるようになってきましたか。）



来年度の具体的な取組について

本校は、ほとんどの学年が単学級で、１学級あたりの児童数が３０人を超える学年が多い。また、職員一人一人の校務分掌が非常に多く、そのような中で一人一人の子どもを大切にした指導に日々努めている。児童や保護者からの評価は比較的高いものの、十分に伝わっていない部分も見受けられる。今後は、今年度目標、精選集中した教育目標の下、めりはりある教育活動を推進し、授業改善と児童理解を更に進めていく必要があると考える。今年度は、週３回１５分間の学力充実タイムを設定し、タブレット内のアプリを活用することで児童が自分の課題にじっくり向き合いながら一人学びを進めることが定着した。また、算数科を中心とした校内研修で教職員が互いの授業を見合い、意見を伝え合うことを通して授業力の向上を目指してきた。一定の成果が現れているので、次年度も継続し、児童の学びがよりよいものとなるようにしていきたい。「こどもの意見が反映され、相談しやすい学校づくり」については、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」という回答がやや多かったので、学級会を定期的に実施したり、代表委員会の内容を充実したりすることで子どもたちの対話力を高め、児童が「話し合った結果、学校がより良くなった」という実感を持てるような取組を目指す。児童一人一人が自己肯定感や自己有用感を高めることで保護者の学校理解へと繋げ、よりよい協力関係を構築していきたい。

小中学校関係者評価

・学校評議員の方々からは、多くの項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と高い評価を得ることができた。昨年度に引き続き、授業や行事の様子を参観していただいたことで、より一層学校教育への理解が深まってきた。授業参観では、「児童が明るく落ち着いた雰囲気の中で、楽しく自分の意思をしっかり持って学んでいる」という評価を受けた。学校行事では、今年度開催した創立１５０周年記念式典について、「火の君文化センターという場と、６人の卒業生をゲストに招いての対談という普段の授業ではない特別感があり、子どもたちにとってよい経験になった」という言葉をいただいた。
・タブレット端末の活用については、学習意欲の喚起や学びの深化等、さまざまな活用の可能性を感じられていた一方で、視力低下等の健康面を心配されていた。
・熊本地震や新型コロナウィルスを経験する中で、保護者同士のつながりが減少してきていることを危惧されていた。そのような中、今年度は学級懇談会の時間に児童のたて割り班活動を行うことで、学級懇談会の参加者を増やすことができた。今後も保護者同士が顔見知りになり、教職員や他の保護者とともに学校教育を支えていこうとする機運を醸成していきたい。